

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(平成30年度)

2. 分野別状況(1)国際戦略総合特区(7/7)

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
つくば国際戦略総合特区 (茨城県、つくば市、国立大学法人筑波大学)	3.4	3.5 進捗度 ・ライフイノベーション・グリーンイノベーションの推進による産業化促進 246% ・次世代がん治療(BNCT)の開発実用化 0% ・藻類バイオマスエネルギーの実用化 122%	3.3 規制の特例等 ・搭乗型移動支援ロボットの規制緩和等 地域独自の取組 ・ロボットスーツ治療事業等	3.3	<p>・TGI(つくばグローバル・イノベーション推進機構)を核とする分野横断的な取組を続けていることを高く評価したい。BNCTの見直し、財政支援の活用等の取組検討が期待されるが、植物機能活用生産等新たな取り組みも行っている。</p> <p>・指標(1)「ライフイノベーション・グリーンイノベーションの推進による産業化促進」の進捗は極めて順調であるが、それ以外は遅々として進んでいない印象を受ける。研究開発型のため、なかなか捗らないことを考慮しても遅いという印象は拭えない。規制緩和を進め、筑波独自の方式で国際競争の激しい分野でのリーディングエリアとしての地位を一日も早く築いてほしい。</p> <p>・科学技術だけでなく人文科学の人材も活用して、TGIに法務に関する部門を設け、現行制度の精査、規制緩和に必要な法的整備、自主規制に必要な規程の整備、等について検討し、自らの判断で(中央官庁に頼ることなく)事業を展開したり、中央官庁に法律の整備等を提言することによって事業の開発速度が増すと期待できる。</p> <p>・研究開発的プロジェクトであっても、知的財産の申請・維持・移転さらには事業化等々で、財政・税制・金融の支援は必要となるので、財務、税務、金融の専門家の協力を得ると、さらに成果が上がるかと期待できる。</p>